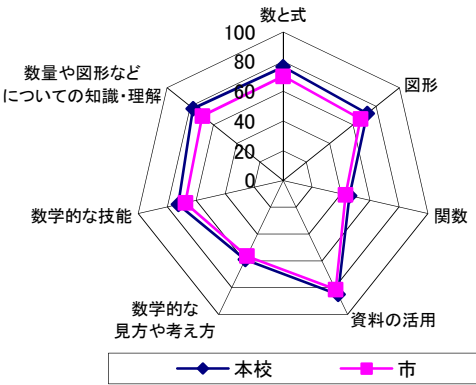


宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	76.5	70.1
	図形	72.3	66.4
	関数	45.8	43.0
	資料の活用	85.1	81.4
観点別	数学的な見方や考え方	59.0	56.4
	数学的な技能	72.4	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	77.6	69.6



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・平均正答率は市の平均に比べて6.4%高い。 基本的な問題においては正答率90%以上のものも数題みられるなど、よく定着している様子が伺えたが、応用的な要素を含むと市の平均を下回る問題もみられた。	・引き続き基礎的・基本的事項の反復練習を重ねるとともに、根気強く文章題等に取り組むもうとする態度を育てていきたい。
図形	・平均正答率は市の平均に比べて5.9%高い。 この領域に関しては、観点別に見てもまんべんなく得点しており、全般的に良く定着している様子が伺える。	・定理や公式等を理解させるための反復練習を重ねつつ、それらを活用する練習にも数多く取り組ませていきたい。
関数	・平均正答率は市の平均に比べて2.8%高い。 ただ、関係式や変域を求めるなどの知識・技能に関する問題は高い正答率であるのに対し、数学的な見方や考え方に関する部分では市の平均を下回る問題が多く見られた。	・関数に対する苦手意識は根強く、正答率の高い問題でも機械的に解けているにすぎない状態にあると考えられる。身近な事象から関数関係を見だし、その意味を考えながら理解させていくような点に重点を置いていく必要がある。
資料の活用	・平均正答率は市の平均に比べて3.7%高い。 この領域においては最も基本的な問題が市の平均を11%以上も上回ったのに対し、残りの問題はほぼ同等の正答率であった。	・比較的理解されやすい領域ではあるが、問題を解く機会が少なく、忘れられやすい領域でもある。単元の合間等を利用して類題を解く機会を多くとる等の工夫をして定着度を上げていきたい。